

科目名	英語表現		Subject	English Expression	
サブタイトル	様々なジャンルの芸術作品について、英語で説明・表現してみよう。				
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」		
開講年次	開講時期	必修／選択	美容芸術	社会実装	
2 年	後期	選択			
授業形態	単位	時間			
演習	2 単位	30 時間		◎	
ゲストスピーカー招聘回		なし			
教員名	Paul McConnell		メールアドレス	yca-elec.001@・・・	
教員の略歴	国内の英語学校や中等、高等教育機関にて英語講師として従事し、日本人学習者への英語教授経験があり。ELEC 所属の英語講師として、多数の教育機関や企業などで様々なレベルの英語授業を担当する他、カリキュラムや教材の作成も担当。				
実践的教育	×				
オフィスアワー	授業の前後30分に直接声をかけてください。				

科目の概要								
本講座では、絵画、彫刻、映画、音楽、ファッションなどのさまざまなジャンルの作品から2つの作品を選択します。そのうちの1つの作品を用いて、作品自体や作者、作品を取り巻く文化・歴史的背景、さらにその作品から読み取れる感情について議論するために、必要な英単語及び英語での表現方法を授業内で紹介し、練習します。コースの終わりには、これまで練習した英単語や表現方法を応用し、選択したもう1つの作品を用いて、クラスメイトに最終プレゼンテーションを行います。前半の授業では作品そのものへ焦点を当て、後半の授業では作者、文化、そして歴史における位置付けへと論理的に発展させたうえで、作品が人々に与える影響を考察します。 授業中は、講師やクラスメイトのサポートを受けながら、各個人のレベルに応じた必要な語彙、文法、表現を身に付けることが出来ます。したがって、この授業では、英語力のレベルに関係なく受講することが出来ます。								
授業方法								
対面	オンライン	ハイブリッド	ディスカッション	プレゼンテーション	作品制作			
○	-	-	○	○	-			
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）								
ディプロマポリシー	授業の目標							
社会実装	このコースでは、以下の力を身につけることができます。 ・絵画、彫刻、映画、音楽、ファッションなどのさまざまなメディアから選んだ作品を説明すること。 ・作者に関する情報を説明すること。 ・作品の歴史的および文化的背景を伝えること。 ・作品についての感想や意見を表現すること。 これらの力を身につけることで、芸術をより深く理解し、よりよく英語で表現できるようになります。 また、芸術やその歴史・文化とのつながりについても理解を深めることができます。							
教科書・教材								
教科書	なし							
参考文献	適宜							
各自準備教材	適宜							
評価方法								
筆記試験	実技試験	受講態度	小テスト	レポート	プレゼンテーション	作品	課題	その他
-	-	30%	-	15%	40%	-	-	15%
その他：授業における他学生へのサポート								
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。								
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法								
プレゼンテーションについては授業内で総括コメントを返します。								
履修上の条件・注意								
授業内統一ルールは授業初日のオリエンテーションにて説明します。 ※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合がある。								
本科目履修と関連する資格								
なし								

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間（分）
第1回	コース概要のオリエンテーション 第1回目プレゼンテーションの作品の選択	作品やアーティストの好みを表現できるようになる。 第一回目のプレゼンテーションの作品を選ぶことができる。	選択した作品を見るまたは聞く。	320 分
第2回	作品の具体的な詳細と説明 “What are they?” / “What is it?” という質問に答える（ジャンル、仕様など）	作品の基本的な詳細や仕様を説明できるようになる。	選んだ作品や楽曲についての詳細な説明を作成する。	240 分
第3回	アーティストに関する経歴をたどる	アーティストの人生における重要な出来事について質問し、答えることができるようになる。 時間や順序を表すフレーズを上手に使えるようになる。	選んだアーティストの詳細な伝記を作成する。	240 分
第4回	作品ジャンルの典型的な特徴を説明する	作品のジャンルを比較対照できるようになる。 典型的なもの、非典型的なものを説明できるようになる。	選んだ作品が属するジャンルについての詳細な説明を準備する。	240 分
第5回	作成された歴史的背景や出来事について話し合う	過去の出来事について質問し、答えることができるようになる。 原因と結果の関係を表現するのが上手になる。	選んだ作品が制作された歴史的背景について、詳細な説明を用意する。	240 分
第6回	作品が作られた場所の文化・宗教・政治などについてディスカッションする	言語、習慣、宗教、政治などに関連する語彙を使って、文化や社会の側面を説明できるようになる。	選んだ作品が制作された場所の文化、宗教、政治について、詳細な説明を用意する。	240 分
第7回	作品に関する歴史や出来事について説明する 例：映画を何人が見たか、絵画に描かれている人々、賞など	作品に関連する人物を特定し、説明できるようになる。 関連する語彙を使って、作品の賞やオーディエンスなどについて説明できるようになる。	選んだ作品に直接関与した、または描かれた人物と、選んだ作品がどのように人々に受け取られたかを詳細に説明する。	240 分
第8回	作品に対する感想やその影響について説明する	作品に対する自分の感想や感情の動きを表現し、正当化する能力が向上する。	選んだ作品について、自分自身が感じたこと、その作品を初めて見聞きしたときに感じたことの概要を完成させる。	160 分
第9回	1回目のプレゼンテーションの計画とフィードバック	序論、本文、結論を含むプレゼンテーションを計画することができるようになる。 プレゼンテーションの中で、通じるべきとなる言葉を使うことができるようになる	第一回目プレゼンテーションの原稿を書き始める	320 分
第10回	プレゼンテーションに伴う魅力的な視覚資料を作成する	プレゼンテーションに適切で魅力的な視覚資料を作成できるようになる。	第一回目プレゼンテーションの原稿を完成させ、視覚資料を作成する。	320 分
第11回	1回目のプレゼンテーションの準備、練習、フィードバック	プレゼンテーションの原稿や視覚資料について互いにアドバイスし合うことができるようになる。 コース内で学んだ言語を復習し、活用することができる。 視覚資料のデザインに関するコンセプトを復習することができる。	授業で行ったフィードバックを原稿や視覚資料に反映させる。	200 分
第12回	1回目のプレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック + 2回目（最終プレゼンテーション）の作品を選択する	視覚資料を伴う完全なプレゼンテーションを行うことができるようになる。 プレゼンテーションに関する質疑応答ができるようになる	最終プレゼンテーションとして選んだ作品を見て、計画を立てる。	320 分
第13回	スクリプトと視覚資料の準備	最終プレゼンテーションとして選んだ作品に関連する特定の語彙をよりよく使うことができる。 コース内で学んだ言語を復習し、活用することができる。 視覚資料のデザインに関するコンセプトを復習することができる。	最終プレゼンテーションの原稿と視覚資料を完成させる。	320 分
第14回	ペアで準備、練習、最終プレゼンテーションのフィードバック	プレゼンテーションの原稿や視覚資料について互いにアドバイスし合うことができるようになる。 コース内で学んだ表現を復習し、活用することができる。	授業で行ったフィードバックを原稿や視覚資料に反映させる。	200 分
第15回	最終プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	授業内で学修した語句とプレゼンテーションにおける概念を復習することができ、また最終プレゼンテーションを通してそれを活用する能力を証明することができる。	最終課題の準備（復習）	60 分